

第141回 「女の情念」を絶叫して 度肝を抜いた異端歌手

ませんでした。

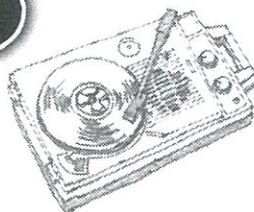
『女のまごころ』は曲名からしても『女のためいき』の二番煎じで、「亜

半世紀前の昭和45年1月から放送が開始された日本テレビ系『全日本歌謡選手権』で見事10週勝ち抜き、初代のグラントチャンピオンに輝いたのは、^{えびすはま}胡浜敷でした。その歌唱力には辛口で鳴る船村徹、鈴木淳、演歌嫌いの淡谷のり子ら審査員も高く評価、番組開始から3か月後には、胡浜三郎と改名し、東芝レコードから『女のまごころ』(詞・丹古晴己、曲・大沢浄二)でデビューを飾ります。

かすれ声にすすり泣きと叫声加わる森進一タイプの異端派歌手に私も注目、新人歌手としてはかなりのヒットとなりましたが、人気絶頂を誇っていた森の歌声とあまりにも似すぎていた嫌いがありました。胡浜がデビューした同45年4月といえば、森は前年大晦日に『港町ブルース』でレコード大賞最優秀歌唱賞を受賞、紅白歌合戦では白組のトリをとり、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで、当時発売された第16弾シングル『波止場女のブルース』もオリコン第2位まで上昇し、新人・胡浜に影を踏ませ

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも



堀井六郎
絵・松本浦

流」という評価は拭えず、胡浜の名前は次第に忘れ去られていきました。その後「森進伍」と改名し、声だけでなくホクロも顔も似せて再登場、「森進一」も認める森進一の世界——森進伍」と称する物真似ショーで長く活動していたそうです。ちなみに森のほうは今年の6月、自ら作詞作曲した『女の真心』という新曲を出しています。

森と胡浜という同年齢のハスキー同士が対決していた頃、私は彼らとは別の男性ハスキーボイスが気になっていました。遡ること2年、私が高校生だった昭和43年6月にデビューした矢吹健です。深夜放送でG.S.や黛ジユンの『天使の誘惑』が頻繁に流れる中、突然聞こえてきたのは怪しげな女性コーラスで始まる『あなたのブルース』

でした。矢吹の静かな歌声はサビになると一転、喉をしばった絶叫唱法に激変し、「あなたへの雄叫びが間奏までに10回繰り返されます。度肝を抜かれた私は、「成人映画」なら



ぬ「成人音楽」という造語が思い浮かぶほどの衝撃を受けました。

「いやー、いやー」とも聞こえる女性コーラスに興奮度はさらに高まるのですが、こうした効果を含め、作詞作曲編曲、そして歌唱法を伝授したのが、矢吹の師匠であり、かつてロカビリー歌手だった藤本卓也です。藤本は『あなたのブルース』に続き、作詞作曲編曲した『蒸発のブルース』『私にだって』を矢吹に提供、そして翌44年5月には、私の一番のお気に入りとなったシングル第4弾『うしろ姿』が登場します。作詞には山口洋子を起用、『二度だけなら』『噂の女』で作詞家としてブレイクする前年のことでしたが、銀座の高級クラブのママとして、男性客の背中を数多く見てきた体験が上手に生かされていきます。

短調のロッカバラードで女の情念演歌を開拓した奇才・藤本卓也の指導のもと、森進一とは似て非なる絶叫唱法で楽しませてくれた矢吹健——。「あたし」という一人称がよく似合った男は、明年1月に七回忌を迎えます。